

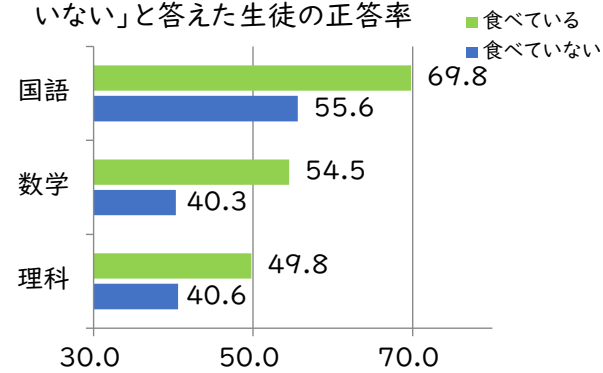
学力と生活習慣

ご家庭においても、お子さんの頑張りを認め、これからご家庭でできることについて話し合ってみてください。

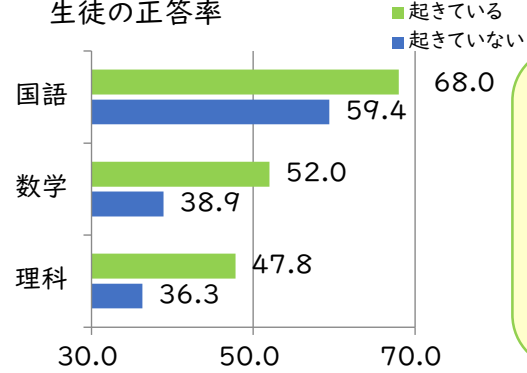


生活のリズムを見直そう

○朝食を「毎日食べている／全く食べていない」と答えた生徒の正答率



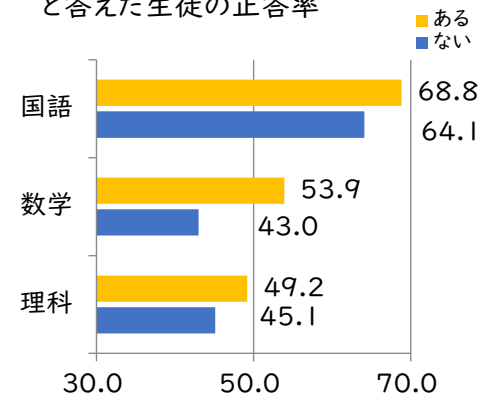
○毎日、同じくらいの時刻に「起きている／起きていない」と答えた生徒の正答率



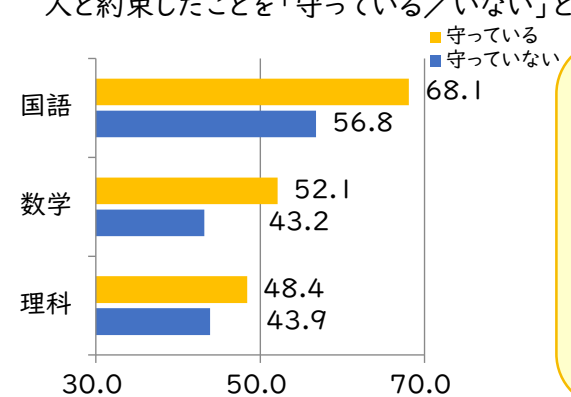
毎日、朝食を食べている生徒ほど正答率が高い傾向がみられました。また、睡眠や食事などの時間を決めることは、生活のリズムを整えることにもつながります。

家族の会話やルールを大切にしよう

○自分には、よいところが「ある／ない」と答えた生徒の正答率



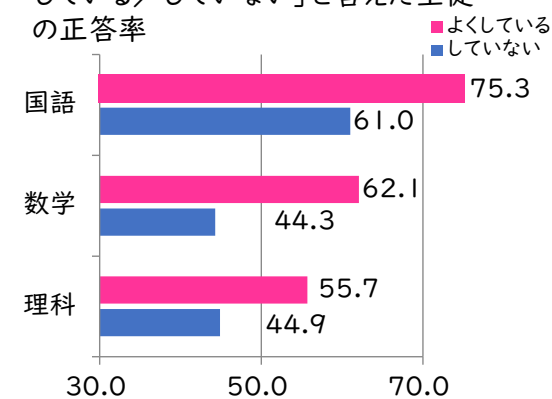
○携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことを「守っている／いない」と答えた生徒の正答率



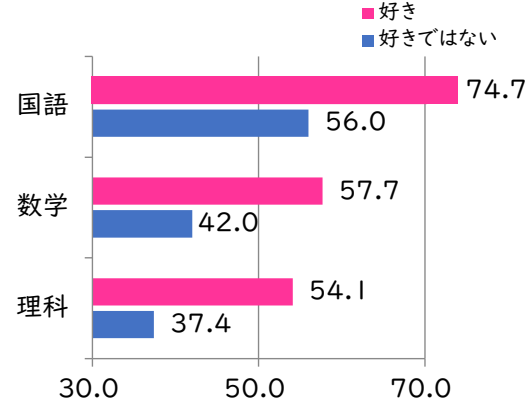
子どもの話に耳を傾け受け止めることや、取組を粘り強く見守り、努力を認め、褒めることを心掛けることが大切です。また、家庭のルールについては、きまりがある理由などを家族と一緒に考えることが大切です。

学習習慣を身につけよう

○家で自分で計画を立てて勉強を「よくしている／していない」と答えた生徒の正答率



○読書は「好き／好きではない」と答えた生徒の正答率



「漢字や計算を繰り返し練習する」など、毎日少しずつでも学習に取り組むことが大切です。また、図書館を利用したり、親子で同じ本を読んで感想を伝え合ったりすることもよい取組です。

加古川市教育委員会は「教育アクションプラン」を策定し、「未来を拓く学び推進事業」に取り組んでいます。

加古川市教育委員会

〒675-8501 加古川市加古川町北在家2000



←未来を拓く
学び推進
事業について



←全国学力・
学習状況調
査について
(概要)

保護者のみなさんとともに考える

加古川市の学力・学習状況（中学校）

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果より

令和4年4月、全国学力・学習状況調査が行われました。

この調査は、生徒の学力・学習状況を分析し、成果と課題を把握し、授業改善を図ることを目的としています。

この調査における加古川市の子どもたちの現状を分析し、結果をまとめました。

自分には、
よいところがある
81.3%
(全国78.5%)

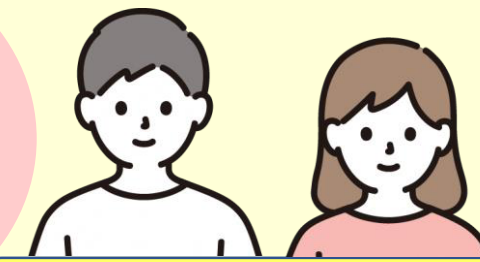
学校に行くのは楽しい
83.8%
(全国82.9%)

友達と
協力するのは楽しい
93.8%
(全国93.7%)

先生はあなたの
よいところを
認めてくれる
89.0%
(全国86.6%)

地域の行事に
参加している
53.0%
(全国40.0%)

先生や学校にいる
大人にいつでも
相談できる
71.6%
(全国66.6%)



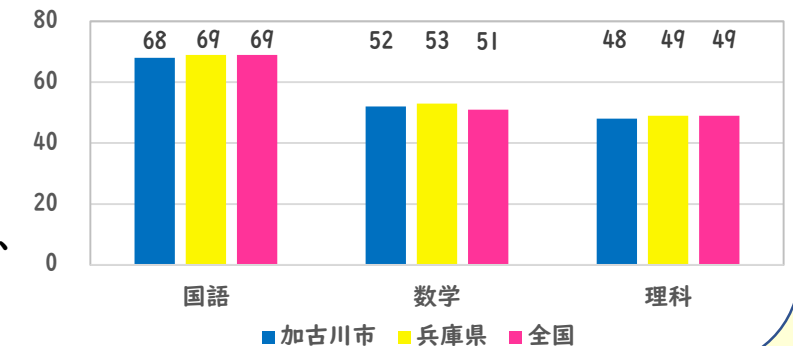
加古川市の子どもたち

生徒質問紙で肯定的に回答した割合の高かった設問より

教科に関する調査結果

- ・加古川市の結果を全国平均と比較すると同程度でした。
- ・基礎的な知識やスキルは身につけていますが、思考力・判断力・表現力には全国と同様に課題が見られます。
- ・記述式問題の無解答率が全国と同様に高く、『協同的探究学習』による授業をさらに充実させることで改善が期待されます。

令和4年度平均正答率



掲載している内容は、学力や学習状況の一部であることを踏まえつつ、今回の結果をもとに、授業改善や家庭との連携のあり方について考えるきっかけとして活用し、これからの時代に求められる資質・能力の育成を図っていきたくと考えています。

今年度、加古川市の子どもたちが苦手としている問題です。

考えや思いを受け止め、子どもと一緒に考えることが大切です。

国語



自分の考えが、資料にある事実や事柄に基づいているか、確かめて書こう

【書くこと】自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる問題

・ウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きに「スマート農業の効果」を書き加える。

(○正答例)

(例えば、)農林水産省のウェブページにある資料には、作業の自動化以外に「情報共有の簡易化」と「データの活用」が示されている。

(△誤答例)

(例えば、)アプリの活用により熟練者でなくても生産活動の主体になることが可能になる情報共有の簡易化や、様々なAI解析により、農作物の生育や病害虫を予測し、高度な農業経営が可能になるデータの活用があります。

誤答には、引用部分をかぎかっこ(「」)でくることができていなかったり、文章をそのまま抜き出すことができていなかったりしたものがありました。

スマート農業について

「農業」×「先端技術」＝「スマート農業」

「スマート農業」とは、「ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用する農業」のこと。

→「生産現場の課題を先端技術で解決する！農業分野におけるSociety5.0の実現」

※Society5.0：政府が提唱する、テクノロジーが駆動した未来社会の姿

スマート農業の効果

- ① 作業の自動化
ロボットトラクタ、スマホで操作する水田の水管理システムなどの活用により、作業を自動化し人手を省くことが可能に
- ② 情報共有の簡易化
位置情報と連動した経営管理アプリの活用により、作業の記録をデジタル化・自動化し、熟練者でなくても生産活動の主体になることが可能に
- ③ データの活用
ドローン・衛星によるセンシングデータや気象データのAI解析により、農作物の生育や病害虫を予測し、高度な農業経営が可能に

相手にわかりやすく伝えるためには、自分の思いや考えをくり返すだけではなく、根拠を文章の中に記述する必要があることを理解して書くことが大切です。その際、引用の仕方や出典の示し方等について理解を深めることも大切です。



数学



数学的な表現を用いて、自分の考えたことを説明しよう

【データの活用】データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題

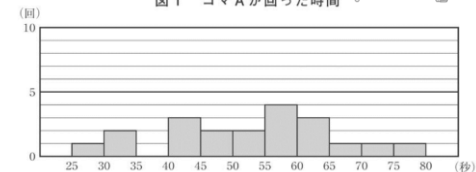
・コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する。

(○正答例)

コマAの回った時間の方がコマBの回った時間より55秒以上の階級の度数の合計が大きい。だから、より長い時間回りそうなコマAを選ぶ。

(△誤答例：①②)

・コマBは安定しているから。
・コマBは散らばりが少ないから。



誤答には、ヒストグラムから読み取れることとして、散らばりについてのみ着目したものがありました。



AとBのどちらのコマがより長く回るか、根拠について考えることが大切です。その際、それぞれの分布の様子を読み取った上で、コマを選ぶ根拠を、最大値、最小値、範囲、累積度数などといった指標を用いて記述できるようにすることが大切です。

理科



実験の計画や考察を行う際は、具体的な数値を示しながら考えよう

【エネルギー】磁気ばねの実験で得られた考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する間隔や範囲の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる問題

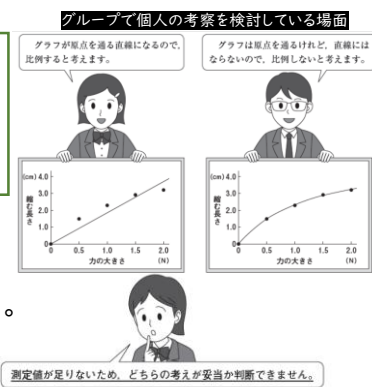
・磁気ばねが縮む長さは、加える力の大きさに比例するかについて実験を行ったところ、二通りの考察が出た。そこで、さらに測定値を増やすことにしたが、どのように増やせばよいかを書く。

(○正答例)

・加える力の大きさを0Nから0.2Nずつ2.0Nまで変化させる。
・加える力の大きさを3.0Nにして測定する。

(△誤答例)

・おもりをより重いものにして測定する。
・測定する間隔をもっと細かくして実験を行う。
・何度も同じ実験を行い測定値を増やす。



(3) 正確な測定値を得るために、測定値をどのように増やせばよいか、【実験の計画】の「加える力の大きさを0から0.5Nずつ2.0Nまで変化させた」の部分に参考にして書きなさい。

力の大きさを変化させるなど、測定値を増やして実験をすることは理解しています。しかし、測定する範囲と刻み幅について数値を用いて記述するなど、具体的に数値を示した実験を計画することができていません。考察の妥当性を高めるために実験の計画を検討して改善するなどの学習が大切です。



「協同的探究学習」が育む子どもの「わかる学力」と「自己肯定感」

協同的探究学習とは、いろいろな考えが可能な問題に対して、一人ひとりの子どもが自分なりの考えを書き、クラスで考えをつなげて深める学習です。

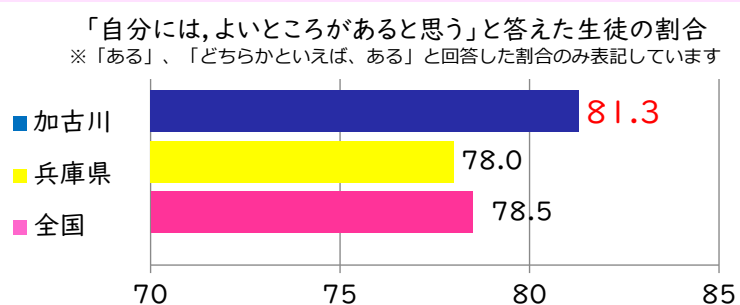
これからの時代には、自分で様々な知識を関連づけながら考え、他者と考えを共有し、ものごとの本質を理解していく「わかる学力」が重要になります。

協同的探究学習により一人ひとりの「わかる学力」や自己肯定感が育ちます。



加古川市学力向上推進委員会 顧問
東京大学大学院 藤村宣之 教授

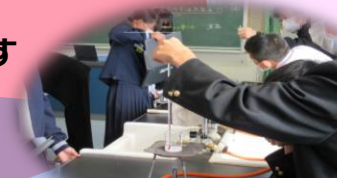
友達や先生から自分の考えを認めてもらうことで、自分のよさに気づき、**自己肯定感**が高まります。今回の調査では、自分には、よいところがあると感じている生徒の割合は全国平均を大きく上回り、取組の成果が表れてきています。



学級全体で考えを出し合うなかで、新たな気づきが生まれます！

協同的探究学習では、学級全体で考えを共有することを大切にしています。自分の考えや友達の考えから違いやつながりを見つけたり、新しいものの見方・考え方に気づいたりするなかで、自身の考え方の幅が広がり、理解が深まります。

Point 違う意見について考える学習で楽しさを感じることは、学力向上につながっています



協同的探究学習

自分で考える力がつきます！

協同的探究学習では、解き方や考え方が1つではない問題を提示し、自分の力で解く時間をしっかりとっています。自分の持っている知識を使って、自分なりの方法で問題を解く力が身につきます。

Point あきらめずに自分なりの方法で解く力が身につく、無解答率が低くなります

根拠を明確にして書く力がつきます！

協同的探究学習では、理由や根拠を大切にしています。「なぜ、そう考えたのか」を一人ひとりが書くことで、資料や文章の中から、必要な情報を読み取り、理由や根拠をはっきりさせて、表現する力が育まれます。

Point 全国的に課題となっている、資料を基に表現する力が身につきます